

フランス語中・上級学習者が
自由会話タスクで使用する動詞：
ネイティブスピーカーの話し言葉コーパスとの比較

時田朋子（実践女子大学）

川口裕司（東京外国語大学）

バルカ・コランタン（東京外国語大学）

はじめに

- 言語における流暢性は、会話を円滑に行うための要素
→十分な語彙を保持し、使用するスキルを含む (Tavakoli& Wright, 2020)



外国語学習者が流暢な話し手になるために必要な語彙はどのようなものか？

- 本研究の目的：
 - フランス語中・上級学習者が会話において使用する動詞に着目
 - ネイティブスピーカー (NS) との比較から、特徴的に使用する動詞を抽出
 - 特に過少使用する動詞がどのように使用されるかを、共起語と合わせて明示
 - 学習者が流暢な話し手になるために必要な教育的課題を提示

先行研究①：日本人学習者が話し言葉で使用するフランス語動詞

- 小澤 (2019) :
 - 自由会話で使用された動詞の時制を、語彙アスペクトの関係から分析
- Matsuzawa & Kawaguchi (2020) :
 - タスクと自由会話より、語彙アスペクトが複合過去形と半過去形の使い分けに及ぼす役割を分析
- Barcat & als. (2022) :
 - 学習者間およびNS間の自由会話より高頻度語として抽出された動詞「penser (思う)」と「croire (信じる)」を、コロケーションの観点より分析

先行研究②：外国語学習における共起表現習得の必要性

- 共起表現として動詞の使用を捉える意義
 - ほとんどの場合、動詞は他の語と共起して使用される
- 外国語学習における共起表現習得の利点
 - 素早く、効率的な言語処理が可能 (Conklin & Schmitt, 2008; Tabossi et al., 2009; Siyanova et al., 2011)
- 共起表現の学習方法
 - 意図的学習（教育などを通して）
 - 流暢性は発達 (Boers et al. 2006; Wood, 2009)
 - 正確性は発達せず (Boers et al. 2006) → 正確性を目的とする学習の必要性 (Huang, 2015)
 - 偶発的学習
 - 出現数が多い共起表現は、学習者が自ら習得 (Webb et als, 2013)
- 共起表現の教育が話し言葉の発達に与える影響
 - Boers et al. (2006) : 共起表現の教育を受けたグループは、オーラルのテストで良いスコア取得
 - Wood (2009) : 共起表現の教育を受けた学生はナラティブスピーチにおいて流暢性を発達
- 外国語教育のための共起表現リストの作成
 - Shin & Nation (2008) : BNC話し言葉コーパスから抽出したコロケーションリスト
 - Simpson-Vlach, & Ellis (2010) : アカデミック英語（話し言葉・書き言葉）のリスト
 - Martinez & Schmitt (2012) : BNC話し言葉・書き言葉コーパスから抽出したリスト

リサーチクエスチョン (RQ) :

- ① 話し言葉において、フランス語中・上級学習者は、NSに比べ、どのような動詞を過剰・過少に使用するのか
→統計的に過剰・過少に使用する動詞をリスト化
- ② 学習者が過少に使用する動詞を、習者・NSはどのように使用するのか
→動詞を共起語と合わせ、学習者・NSごとにリスト化して比較
- ③ 学習者が流暢な話し手になるために必要な動詞は、どのような共起表現で使用されているのか
→学習者が習得を必要とする動詞表現を提示

調査方法：コーパス

	IPFC-Jコーパス (日本語を母語とするフランス語学習者)	TUFSコーパス (一部のみ) (フランス語母語話者)
延べ語数	222602語	160209語
異なり語数	6970語	7761語
ファイル数	120個	44個
録音タスク	学習者同士の自由会話	自由会話
録音場所	東京 (2ヶ所)、福岡 (2ヶ所)、名古屋	エックス・アン・プロバンス
話者数	91名	48名
話者のプロフィール	日本語を母語とする大学生・大学院生 (フランス語専攻)	フランス語を母語とする大学生 (日本語専攻)
録音時期	2016年－2020年	2009年、2011年
言語レベル	B1/B2が中心	ネイティブスピーカー

RQ①：調査・分析方法

- RQ①：フランス語中・上級学習者は、NSに比べ、どのような動詞を過剰・過少に使用するのか
- 調査方法：特徴語分析。AntConc3.5.9 (Windows) 2020を使用
- 分析方法：
 - 対数尤度比統計量（log-likelihood）を基準として特徴語を抽出「20以上」の数値であった語を取り上げる
 - 動詞を選択し、当該語の用例を検証して動詞としての使用を確認

RQ① : 結果一過剩使用動詞 (5個)

語	学習者頻度	特徴度 (対数尤度比)	効果量 (オッズ比)	NS頻度
ai	2240	67.97	1.2605	825
était	1380	64.36	1.3376	397
allée	297	28.67	1.5391	35
aime	300	24.94	1.4874	47
étudier	148	20.57	1.6972	2

RQ① : 結果一過少使用動詞 (26個)

語	学習者 頻度	特徴度 (対数 尤度比)	効果量 (オッズ 比)	NS頻度
faut	114	87.31	0.4081	366
allez	22	81.82	0.192	175
avez	75	77.54	0.3631	280
vois	92	67.83	0.4139	290
dis	19	65.66	0.2004	144
voulez	6	58.37	0.1021	95
avoir	47	49.94	0.3591	178
pouvez	6	44.15	0.1243	77
êtes	24	42.25	0.2865	120
donner	4	41.06	0.0983	66
voyez	1	40.63	0.0324	52
mettre	9	36.6	0.5522	76
ont	115	33.63	0.4276	243

語	学習者 頻度	特徴度 (対数 尤度比)	効果量 (オッズ 比)	NS頻度
eu	48	32.35	0.4276	145
soit	22	31.59	0.3152	98
voir	78	30.46	0.5099	185
excusez	1	28.4	0.0441	38
fait	690	27.41	0.7883	814
aurait	1	25.81	0.0478	35
plaît	6	25.35	0.1779	52
faire	316	25.15	0.7194	439
a	1675	24.92	0.8616	4790
serait	13	24.11	0.2794	67
sera	21	23.1	0.354	81
passer	20	23.01	0.3474	79
vont	14	21.64	0.3047	65

RQ①：結果 一動詞別分類

抽出された過剰・過少使用動詞

- ・ 16種類の動詞
 - ・ 全て基本動詞
 - ・ さまざまな活用形
- * 過少使用動詞に、2人称単数・複数「vous」の活用形が多い→学習者は2人称単数「tu」（親称）を好む

注：

- ・ 太字は過少使用動詞
- ・ 「*」は名詞の使用もあり

動詞・不定詞	過剰・過少使用動詞
avoir (持つ)	ai, avez , avoir, ont, eu, aurait, a
être (ある)	était, êtes , soit, serait, sera
aller (行く)	allée, allez , vont
voir (見る)	vois , voyez, voir
faire (する)	fait* , faire
aimer (好む)	aime
étudier (勉強する)	étudier
falloir (必要である)	faut
dire (言う)	dis
vouloir (望む)	voulez
pouvoir (できる)	pouvez
donner (与える)	donner
mettre (置く)	mettre
excuser (許す)	excusez
plaître (気に入る)	plaît
passer (通る)	passer

RQ②：調査・分析方法

- RQ②：
学習者が過少に使用する動詞を、
学習者・NSはどのような共起表現として使用するのか
- 調査方法：
学習者が過少使用した動詞にN-gram分析（AntConc3.5.9(Windows)2020使用）
抽出された共起表現を学習者とNS間で比較
- 分析方法：
 - 学習者の過少使用動詞20個を対象（学習者が高頻度に使用した動詞6個削除）
*高頻度使用動詞は10万語中40回以上→本研究では80回以上
 - 学習者・NSのコーパスでN-gram分析→共起表現抽出
 - 動詞ごとに比較

RQ②：調査・分析方法

・本研究における共起表現の特定化

① 語数

- ・ 2・3・4語から成る表現を抽出

→表現の構造・意味の完全性を目指すため

(Simpson-Vlach, & Ellis, 2010; Martinez & Schmitt, 2012)

→フランス語動詞表現であり「主語＋動詞」の抽出が予測されるため2グラムを含む

② 切り捨て値

- ・ 10万語中4回以上を共起表現とする

(学習者：8.9回以上→8回以上；NS：6.4回以上→6回以上)

→先行研究は恣意的であるが、100万語中40回以上と定める研究が多い

(Biber et al, 2004; Hyland & Jiang, 2018)

③ 分散

- ・ 2名以上

→先行研究は恣意的 (Biber et al, 2004; Hyland & Jiang, 2018)

RQ②：調査・分析方法

- 共起表現の具体例
NSが発した「serait」
(67回抽出)

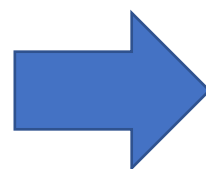
2グラム表現	頻度	3グラム表現	頻度	4グラム表現	頻度
ça serait	35	なし		なし	
ce serait	21				

- 共起表現特定化における問題点①

グラムごとのリストであるため、同じ表現が複数のリストに含まれる

- 例) ... que ce soit... (3グラムとして抽出)
... que ce soit... (2グラムとして抽出)
- 対処法：大きいグラムリストの表現をとる (小さいグラムリストの表現を削除)

2グラム表現	頻度	3グラム表現	頻度
ce soit	31	que ce soit	29
on soit	8	qu'on soit	7
elle soit	6	qu'elle soit	6



2グラム表現	頻度	3グラム表現	頻度
ce soit	2	que ce soit	29
on soit	1	qu'on soit	7
elle soit	0	qu'elle soit	6

RQ②：調査・分析方法

• 共起表現特定化における問題点②

小さいグラムリストの表現が、大きいグラムリストの複数の表現に含まれる

- 例) 2グラム「vous voulez」が、3グラムの3つの表現に含まれる
→ 1回抽出された「si vous voulez un」を、
「si vous voulez」「vous voulez un」と「vous voulez」を2回抽出と数える
- 対処法：大きいグラムリストの複数の表現で組み合わせ可能な表現を作成し、
その表現が抽出された頻度を算出。合計から重なり分を削除
→ 3グラム表現では「si vous voulez un」と「que vous voulez un」の可能性あり
それぞれ検索すると「si vous voulez un」0回、「que vous voulez un」1回
「vous voulez」の頻度は、「 $85 - (29 + 4 + 6) + 1 = 47$ 」で47回に補正

2グラム 表現	頻度	3グラム 表現	頻度
vous voulez	85	si vous voulez	29
		que vous voulez	4
		vous voulez un	6



2グラム 表現	頻度	3グラム 表現	頻度
vous voulez	47	si vous voulez	29
		que vous voulez	4
		vous voulez un	6

RQ②：分析—学習者とNSのリスト

- 学習者リストとNSリストの比較
 - 全動詞において、学習者よりNSの方が共起表現の種類が多い
 - 学習者が使用した共起表現のほとんどはNSも使用

RQ② : 結果一学習者とNSの共起表現リスト (avoir①)

avoir

		学習者	NS
1	d'avoir	9	29
2	après avoir	8	
3	avoir un		19
4	avoir des		15
5	avoir une		12
6	avoir euh		11
7	faut avoir		10
8	d'avoir un		9
9	pour avoir		9
10	à avoir		9
11	il va y avoir		8
12	y en avoir		8
13	avoir les		8
14	d'avoir des		7

eu

		学習者	NS
1	j'ai eu	17	27
2	il y a eu		24
3	pas eu		15
4	on a eu		13
5	eu des		12
6	as eu		9
7	eu de		8
8	eu euh		8
9	eu la		8
10	eu le		8
11	a eu une		7
12	avait eu		7
13	ont eu		7
14	a eu un		6

RQ③：調査・分析方法

- RQ③：
学習者が流暢な話し手になるために必要な動詞は、
どのような共起表現で使用されているのか
- 調査方法：
学習者リストとNSリストを比較し、学習者用のリスト作成
- 分析方法：
 - 学習者が使用した共起表現は削除
 - NSリストの動詞を文法的役割により整理
 - 学習者用の共起表現リストを作成

RQ③：分析一学習者向けのリスト作成

- NSリストの動詞を文法的役割により整理
 - 活用形（14動詞）
 - 主語＋動詞：tu **dis**, ils **vont**, vous **voyez**, ce **serait**, on **aurait**, ce **sera**
 - 主語＋動詞＋（冠詞・否定辞など）：vous **avez un**, vous **pouvez pas**
 - 主語＋間接目的語＋動詞：vous m'**avez**, je me **dis**
 - 接続詞＋主語＋動詞：et vous **avez**, si vous **êtes**, que ce **soit**
 - 不定形（5動詞）
 - 動詞＋冠詞：voir un, avoir un, donner un, mettre les, passer le
 - 間接目的語＋動詞：me voir, je vais vous donner
 - 前置詞＋動詞：pour avoir, de voir, à mettre, de passer
 - その他動詞＋動詞：on va voir, faut avoir, faire passer
 - 過去分詞（1動詞）
 - 助動詞＋動詞：il y a eu, on a eu, avait eu
 - 動詞＋冠詞：eu un, eu des, eu le

RQ③ : 学習者のための過少使用動詞を用いた共起表現リスト①

avoir

avez		avoir	eu	aurait
vous avez un	si vous avez des	il va y avoir	il y a eu	il y aurait
vous avez une	si vous avez	faut avoir	on a eu	ça aurait
vous avez de	donc vous avez	y en avoir	as eu	on aurait
vous avez des	et vous avez	d'avoir un	ont eu	
vous avez le	là vous avez	d'avoir des	avait eu	
vous avez la		à avoir	a eu un	
vous avez pas		pour avoir	a eu une	
vous avez vu		avoir un	pas eu	
vous avez déjà		avoir une	eu de	
vous avez euh		avoir des	eu des	
vous m'avez		avoir les	eu le	
vous l'avez		avoir euh	eu la	
vous n'avez pas			eu euh	

結論：

- フランス語中・上級者が、1対1の自由会話において、過剰・過少に使用する動詞は、①全て基本動詞、②多様な活用形
- 学習者が過少に使用した動詞を含む共起表現は、NSに比べて種類が非常に少ない
- 学習者が使用せずかつNSが使用する共起表現を、統語構造ごとにまとめたリストの作成
 - リストは、学習者が過少に使用する動詞をどのように使用するか提示
 - 共起表現リストの習得は、学習者がフランス語話し言葉の流暢性を発達させることに貢献するのではないか
- 今後の課題
 - リストの共起表現を、NSコーパスの用例を参照してキーフレーズ化する
 - 共起表現リストの習得による流暢性の発達を検証
 - 動詞以外の品詞（代名詞、接続詞）のリスト作成

謝辞

本研究は、以下により構築されたコーパスを利用しました。
厚く御礼申し上げます。

- 基盤研究 (B) 20H01291 代表者：ドウテ・シルヴァン
- 基盤研究 (B) 20H01279 代表者：川口裕司

参考文献：

- Anthony, L. (2020). AntConc (Version 3.5.9)[Computer Software]. Tokyo, Japan: Waseda University. Available from: <https://www.laurenceanthony.net/software>
- Barcat, C., Kawaguchi, Y., & Detey, S. (2022). “Les frequency and collocations in L1 and L2 French: *Très, beaucoup, mais, penser, and croire* in Japanese learners’ speech”, 『外国語教育研究』、25、pp. xx-xx.
- Biber, D., Conrad, S., & Cortes, V. (2004). “If you look at...: Lexical bundles in university teaching and textbooks”, *Applied Linguistics*, 25, 371-405.
- Boers, F., Eyckmans, J., Kappel, J., Stengers, H., Demecheleer, M. (2006). “Formulaic sequences and perceived oral proficiency: putting a Lexical Approach to the test”, *Language Teaching Research*, 10, 245-261.
- Conklin, K., & Schmitt, N. (2008). “Formulaic sequences: Are they processed more quickly than nonformulaic language by native and nonnative speakers?”, *Applied Linguistics*, 29, 72-89.
- Huang, K. (2015). “More does not mean better: Frequency and accuracy analysis of lexical bundles in Chinese EFL learners’ essay writing”, *System*, 53, 13-23.
- Hyland, K., & Jiang, F. K. (2018). “Academic lexical bundles: How are they changing?”, *International Journal of Corpus Linguistics*, 23, 383-407.
- Martinez, R., & Murphy, V. A. (2011). “Effect of frequency and idiomaticity on second language reading comprehension”, *TESOL Quarterly*, 45, 267-290.
- Martinez, R., & Schmitt, N. (2012). “A phrasal expression list”, *Applied Linguistics*, 33, 299-320.
- Matsuzawa, M., & Kawaguchi, Y. (2020). “Passé composé and imparfait in Japanese learners of French - With particular consideration of the aspect hypothesis -”, 『ふらんぼー』、46、pp. 61-76.
- Shin, D., & Nation, P. (2008). “Beyond single words: the most frequent collocations in spoken English”, *ELT Journal*, 62, 339-348.
- Simpson-Vlach, R., & Ellis, N. C. (2010). “An Academic Formulas List: New methods in phraseology research”, *Applied Linguistics*, 31, 487-512.
- Siyanova-Chanturia, A., Conklin, K., & van Heuven, W. J. B. (2011). “Seeing a phrase “time and again” matters: The role of phrasal frequency in the processing of multiword sequences”, *Journal of experimental psychology: Learning, memory, and cognition*, 37, 776-784.
- Tabossi, P., Fanari, R., & Wolf, K., (2009). “Why are idioms recognized fast?”, *Memory & Cognition*, 37, 529-540.
- Tavakoli, P., & Wright, C. (2020). *Second Language Speech Fluency: From Research to Practice*. Cambridge: Cambridge University Press.
- Webb, S., Newton, J., & Chang, A. (2013). “Incidental learning of collocation”, *Language learning*, 63, 91-120.
- Wood, D. (2009). “Effects of focused instruction of formulaic sequences of fluent expression in second language narratives: A case study”, *The Canadian Journal of Applied Linguistics*, 12, 39-57.
- 小澤南海 (2019) 「フランス語学習者の自由会話における動詞使用」 『西南学院大学大学院研究論集』、9、pp. 19-34.

RQ② : 結果一学習者とNSの共起表現リスト (avoir①)

avoir

		学習者	NS
1	d'avoir	9	29
2	après avoir	8	
3	avoir un		19
4	avoir des		15
5	avoir une		12
6	avoir euh		11
7	faut avoir		10
8	d'avoir un		9
9	pour avoir		9
10	à avoir		9
11	il va y avoir		8
12	y en avoir		8
13	avoir les		8
14	d'avoir des		7

eu

		学習者	NS
1	j'ai eu	17	27
2	il y a eu		24
3	pas eu		15
4	on a eu		13
5	eu des		12
6	as eu		9
7	eu de		8
8	eu euh		8
9	eu la		8
10	eu le		8
11	a eu une		7
12	avait eu		7
13	ont eu		7
14	a eu un		6

RQ② : 結果一学習者とNSの共起表現リスト (avoir②)

avez

		学習者	NS
1	vous avez	42	
2	ce que vous avez	11	18
3	que vous avez	9	10
4	vous avez un		27
5	vous avez des		21
6	si vous avez		11
7	vous avez une		13
8	vous avez la		12
9	vous m'avez		12
10	vous avez pas		11
11	vous l'avez		11
12	et vous avez		10
13	si vous avez des		8
14	vous n'avez pas		8

		学習者	NS
15	vous avez déjà		8
16	vous avez euh		7
17	vous avez le		7
18	donc vous avez		6
19	là vous avez		6
20	vous avez de		6
21	vous avez vu		6

aurait

		学習者	NS
1	il y aurait		9
2	ça aurait		7
3	on aurait		6

RQ② : 結果一学習者とNSのリスト (être)

êtes

		学習者	NS
1	vous êtes	21	88
2	que vous êtes		12
3	êtes pas		8
4	vous vous êtes		7
5	si vous êtes		6

serait

		学習者	NS
1	ça serait	8	35
2	ce serait		21

soit

		学習者	NS
1	que ce soit		29
2	qu'on soit		7
3	qu'elle soit		6

sera

		学習者	NS
1	ce sera		23
2	elle sera		11
3	ça sera		11
4	on sera		10
5	sera là		6

RQ② : 結果一学習者とNSのリスト (aller)

allez

		学習者	NS
1	vous allez	16	55
2	allez vous		13
3	allez-y		13
4	que vous allez		6
5	vous allez faire		6
6	vous allez voir		6

vont

		学習者	NS
1	ils vont		36
2	qui vont		13
3	vont pas		8
4	qu'ils vont		7

RQ② : 結果一学習者とNSのリスト (voir)

voyez

		学習者	NS
1	vous voyez		41

vont

		学習者	NS
1	voir euh	11	
2	on va voir		15
3	voir un		14
4	de voir		13
5	pour voir		13
6	je vais voir		11
7	rien à voir		11
8	voir les		11
9	à voir		8

		学習者	NS
10	aller voir		8
11	le voir		8
12	voir l		8
13	me voir		7
14	voir un peu		6
15	vous allez voir		6
16	faut voir		6
17	la voir		6

RQ② : 結果一学習者とNSのリスト (1語①)

dis

		学習者	NS
1	je dis	8	30
2	tu dis		20
3	je vous dis		18
4	je te dis		14
5	je lui dis		10
6	tu te dis		10
7	dis pas		8
8	dis que		7
9	dis ça		7
10	dis c'est		6
11	je me dis		6
12	que je dis		6
13	dis bon		6
14	dis à		6

voulez

		学習者	NS
1	vous voulez		33
2	si vous voulez		29
3	ce que vous voulez		14
4	vous voulez un		6
5	voulez pas		6

pouvez

		学習者	NS
1	vous pouvez		47
2	vous pouvez me		10
3	ce que vous pouvez		9
4	vous pouvez vous		8
5	vous pouvez pas		6

RQ② : 結果一学習者とNSのリスト (1語②)

donner

		学習者	NS
1	donner un		13
2	je vais vous donner		10
3	vous donner		8
4	me donner		8
5	lui donner		6

mettre

		学習者	NS
1	à mettre		9
2	mettre en place		8
3	de mettre		7
4	mettre les		7
5	mettre un		7
6	y mettre		7
7	mettre des		6

excusez

		学習者	NS
1	excusez-moi		34

pouvez

		学習者	NS
1	s'il vous plaît		32
2	te plaît		8

passer

		学習者	NS
1	de passer		10
2	faire passer		6
3	pas passer		6
4	passer le		6
5	va passer		6

RQ③ : 学習者のための過少使用動詞を用いた共起表現リスト①

avoir

avez		avoir	eu	aurait
vous avez un	si vous avez des	il va y avoir	il y a eu	il y aurait
vous avez une	si vous avez	faut avoir	on a eu	ça aurait
vous avez de	donc vous avez	y en avoir	as eu	on aurait
vous avez des	et vous avez	d'avoir un	ont eu	
vous avez le	là vous avez	d'avoir des	avait eu	
vous avez la		à avoir	a eu un	
vous avez pas		pour avoir	a eu une	
vous avez vu		avoir un	pas eu	
vous avez déjà		avoir une	eu de	
vous avez euh		avoir des	eu des	
vous m'avez		avoir les	eu le	
vous l'avez		avoir euh	eu la	
vous n'avez pas			eu euh	

RQ③ : 学習者のための過少使用動詞を用いた共起表現リスト②

être

êtes	soit	serait	sera
êtes pas	que ce soit	ce serait	ce sera
que vous êtes	qu'on soit		ça sera
vous vous êtes	qu'elle soit		elle sera
si vous êtes			on sera
			sera là

aller

allez	vont
vous allez faire	ils vont
vous allez voir	qui vont
que vous allez	vont pas
allez vous	qu'ils vont
allez-y	

voir

voyez	voir
vous voyez	voir un
	voir les
	me voir
	la voir
	le voir
	à voir
	de voir
	pour voir
	rien à voir
	je vais voir
	on va voir
	vous allez voir
	aller voir
	faut voir
	voir un peu

RQ③ : 学習者のための過少使用動詞を用いた共起表現リスト③

dire

dis

tu dis

je me dis

je te dis

je lui dis

je vous dis

tu te dis

dis ça

dis pas

dis que

dis c'est

dis bon

dis à

que je dis

plaître

plaît

te plaît

s'il vous plaît

pouvoir

pouvez

vous pouvez

vous pouvez me

vous pouvez vous

vous pouvez pas

ce que vous pouvez

vouloir

voulez

vous voulez

vous voulez un

voulez pas

si vous voulez

ce que vous voulez

excuser

excusez

excusez-moi

mettre

mettre

mettre un

mettre des

mettre les

à mettre

de mettre

y mettre

mettre en place

donner

donner

donner un

je vais vous

donner

me donner

lui donner

vous donner

passer

passer

passer le

pas passer

de passer

faire passer

va passer